

あるべき姿の総合型地域スポーツクラブに向けた一考察 ～スポーツ・食・住、コロナ禍におけるスポーツプログラム開発と成果より～

To a comprehensive community sports club as we stand for ～SPORTS・FOOD・LIFE, Sports Program Development and Results in the COVID-19

高野蓮汰

指導教員 川上祐司

帝京大学 経済学部 経営学科 スポーツ経営コース 川上ゼミナール所属

キーワード:総合型スポーツクラブ,コロナ禍のスポーツ,スポーツ・食・住,クラブ会員満足度,クラブ継続要因,

1. 緒言

筆者は八王子市北西部を中心に活動する総合型地域スポーツクラブ(以下、「総合型クラブ」とする)、アローレ八王子スポーツクラブ(以下、「アローレ SC」とする)にてインターンシップ生として同クラブの運営に携わっている。2004年に設立された同クラブは「スポーツを通じて地域に笑顔を！」をスローガンに、誰もがスポーツを楽しめる環境を創り、地域の皆様と一緒に地域交流を活性化することを目指している。

同クラブは現在、サッカー、バスケットボール、チアダンス、健康体操教室、ヨガ教室などの多種目を多世代・多志向のクラブ会員へ展開し、クラブ会員数は1,700人に上りその数は年々増加の一途を辿る。立地的にも施設的にも決して恵まれているとは言い難いものの、ここへ通う多くのクラブ会員の「笑顔」に同クラブへの愛着を感じたとともに、総合型クラブとしての魅力も強く感じた。

2. 研究目的

スポーツ庁によると総合型クラブは「人々が身近な地域で親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子どもから高齢者まで(多世代)、様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ」であると記されている。しかし、自立財源の確保が困難である点や補助金等の打ち切り等経営悪化に伴いクラブの縮小や閉鎖がある中で同庁の掲げる目的に乖離もあるように感

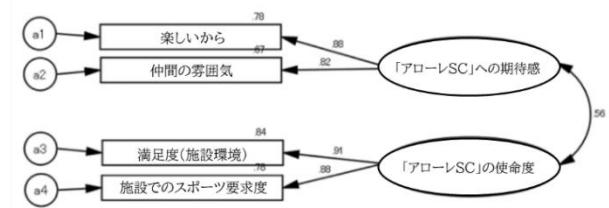
じる。また、コロナ禍でのスポーツの享受が希薄な中で総合型クラブが機能を果たすべきではないだろうか。

そこで本研究は、創設16年目を迎えるアローレSCの存続の要因について明らかにする。更には総合型クラブとして更なる機能拡充に向けたプログラム開発とその効果の検証を行うとともに、あるべき姿の総合型クラブに向けて考察する。

3. 研究方法および結果

1) アローレ SC のクラブ会員存続要因について

クラブ会員へ同クラブのイメージに関するインタビュー調査を行い、同調査で抽出されたイメージを基にアンケート調査を行った。アンケート調査を基に共分散構造分析を行い分析の結果2つの潜在変数をそれぞれ「アローレ SC への“期待感”」と「アローレ SC の“使命度”」と示した。図はその因子分析モデルをパス図で示した。



図：アンケート調査のパス図・結果

2) 1)の結果を基に実践研究

1)での研究結果で検出された2つの要因を基に会員満足度向上などクラブ機能拡充および地域貢献活動を強化した。コロナ禍において社会の経済動向が滞る中で総合型クラブの機能を発揮すべくスポーツからの逃避を回避するとともにコロナ禍でもスポーツが安

心して楽しめる環境を創り、新プログラム開設に向けたイベントを開催した。スポーツ・食・住をフレームワークとした新たな活動内容は以下の通りである。

①アローレ八王子 SC サマースクールの開校(新設プログラムに向けたイベント)

開催日:8月19日(水)、24日(月)

同イベントは前述の通りコロナ禍でも安心して楽しめるスポーツプログラムを提供する事、新プログラム開設に向けて想定種目の体験を促し小学生のスポーツ離れと運動能力低下を防ぐ為、二日間に分けて同イベントを開催。合計 19 名の子どもたちが参加し、コロナ禍において「安心・安全・楽しい」プログラムであることを証明した。

② ①を基にシーズン制スポーツプログラム「スポーツ探検隊」開講

開催日:9月20日(日)、27日(日)体験会開催、10月4日(日)から毎週日曜日9時から開講、10月)バスケットボール、11月)テニス、12月)フラッグフットボール1月)ラクロス、2月)サッカー、3月)野球

会費:月謝:4,400円,年会費:1,500円

同プログラムは1ヶ月毎に“する”スポーツ種目を設定し幼児期より多くのスポーツに触れて将来を見据えた一貫指導システムにより健全で健康な子どもたちの成長を支援する。これまで計29名の子どもたちに参加して頂いた(10月18日現在)。コロナ禍でも安心して安全に楽しく行えるスポーツプログラムとした。参加したクラブ会員は「今までにない未知の経験を子どもにさせることができるクラブが地元に存在している」「今、他のクラブにはない魅力あるプログラム」等、子どもたちを見守る親御様たちの期待も大きい。

③クラブファシリティの整備

筆者はアローレ SC の更なるクラブ機能拡大に向けて同クラブが管理するクラブハウスに隣接させている森の公園・会員制のキャンプ場“アローレの森のキャンプ場”、Arawore Café(アローレカフェ)、フィールド等あらゆる施設の整備を行った。整備は地域住民やクラブ会員、クラブスタッフら自力で一から開拓を行い、現在も整備・管理を行っている。なお、筆者は地域住民の皆様で整備を行った“アローレの森キャンプ場”にて 8泊 9 日のキャンプ生活を行い、コロナ禍でも安心して生活でき、安全な場所である事を証明した。以降も地

元の子どもたちが利用している。また現在、アローレファーム(農園)も整備中である。

④Arawore Café(アローレカフェ) のオープン

10月2日(金)より週末限定で同クラブハウス内にオープンしたカフェでは、これまで課題であったクラブ会員のコミュニティ機能および地域資産と人材の交流を拡充するとともにクラブライフの充実を促すものである。これまで(10月18日現在)の売上は、累計で23,700円、営業日平均では3,950円を計上している。

4. 考察・まとめ

筆者はあるべき姿の総合型クラブに向け、本研究で示されたクラブ存続要因を基に、①～④の施策を実践し、クラブへの経営効果を検証した。実践した施策は徐々にではあるがクラブへの経営効果が見られた。例えば、プログラム拡充による会員収入の拡大である。総合型クラブは会員費での経営が目指すべき姿である。その為、アローレSCが目指すべき姿に向けたプログラムの拡充による会員数の増加が地域に定着する為にも必要である。また、クラブ会員と共にを行うファシリティ整備は施設の価値を高め、クラブ経営効果に相乗効果がある事が考えられる。については、クラブ会員の帰属意識を高めることで地域アイデンティティの構築にも繋がる。なお、コロナ禍においてスポーツの機能を失いつつあるスポーツチーム・クラブもある中でクラブハウスを中心にスポーツを愛好する人々が自然と共にスポーツを通じてコミュニケーションを介し地域のコミュニティを創出できた事は総合型クラブの機能を十分に発揮し、地域のスポーツクラブとしての価値を高め、スポーツを行う重要性を証明したのではないだろうか。

最後に、筆者は本場ドイツ総合型クラブとの“違い”とはクラブ会員費の捉え方・クラブに参加するクラブ会員の目的にあると考える。ドイツでは会員費に多様な意味を持つ。会員費はクラブへ参画する為の投票権であり、クラブを支え各会員はクラブの役割を担う。会員の協働によるクラブづくりと積極的な参画を原則としている。以上の研究結果を踏まえドイツへ視察・調査を行い、更なる総合型クラブの会員数向上と地域の発展に向け筆者の研究は続く。

5. 参考文献

スポーツ序ホームページ「総合型地域スポーツクラブ」
佐藤由夫(2005)：日本自由時間スポーツ研究所